

研究課題名	不整脈源性右室心筋症および肥大型心筋症における植込み型除細動器右心室リードの長期性能に関する、後ろ向き観察研究
研究機関名	武蔵野赤十字病院 循環器科
研究責任者	所属 循環器科 氏名 佐川 雄一朗
研究期間	(西暦) 2018年9月～2020年9月
研究の意義・目的	不整脈源性右室心筋症(ARVC)および肥大型心筋症(HCM)において、植込み型除細動器(ICD)心室リードのパラメーター、特にセンシングが他の心筋症と比較して下がる傾向にあると過去の文献で報告されている。ARVCは右室心尖部を含む心筋組織が徐々に線維脂肪化していくことが報告されており、心室リードのパラメーターが心筋変性に伴い変化するのは容易に予想されるが、HCMに関しては、一般的には進行性の心筋症ではなく、対照群を設けて比較した場合、ARVCは有意にセンシングが低下し、HCMに関しては有意差はないのではないか、という仮説を立て、ICDリードの長期性能を検討しようと考えた。
研究の方法 (対象期間含む)	1998年12月から2014年3月の期間にICDを留置された心疾患患者の中でARVCとHCM以外の器質的心疾患症例を除外した合計62症例のうち、5年間フォローアップできたARVC7名、HCM14名を、コントロール群として設定した非器質的心疾患(ブルガダ症候群、QT延長症候群、特発性心室細動)29名と比較した。単施設の後ろ向き観察研究であり、心室リードのセンス、閾値、抵抗値の推移を評価項目としてそれぞれ比較検討した。
①試料・情報の利用目的及び利用方法(匿名加工する場合や他機関へ提供される場合はその方法含む) ②利用し、又は提供する試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	①電子カルテを用いて情報を取得し、研究や論文の作成に利用する。 ② 調査項目：原疾患、年齢、性別、合併疾患、採血データ、心エコー所見、除細動器やリードの種類 評価項目：右心室リードのセンス、閾値、抵抗値の推移(約5年間) ③研究責任者のみが使用する ④佐川 雄一朗
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 循環器科 氏名 佐川 雄一朗 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525